

2023年11月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 11月えんだより

11月の聖句「地はお造りになったものに満ちている。」

詩編 104 篇 24 節

つい先日まで、日中の最高気温が25℃を超える夏日が続いていたかと思えば、朝夕の気温が急激に下がり、体調管理が難しくなっています。園でもお部屋の温度の管理や、服装の調整に気を付けていきたいと思えます。

最近、クマの出没やクマに襲われるといったニュースをよく見聞きします。街から離れた山間部や、里山といったところだけでなく、市街地での目撃や人的被害なども多くなっているようです。その数の多さは、過去最悪のペースとなっているようです。その原因の一つは個体数の増加。京都府では、2002年度に約300頭だったツキノワグマが2020年度には約1640頭と5倍以上に増えているそうです。また、今年の夏は地球温暖化による例年以上の猛暑で、餌になるドングリの実りが悪かったことも大きく影響しているようです。頭数の増加は、乱獲等による頭数の減少から狩猟を制限したことも原因の一つのこと。人間との接触の機会が増えているのは、山の荒廃が進み、クマの居住域と人里との境が不明瞭になっていることや、長年にわたる狩猟制限の間に、猟師の数の減少や狩猟技術の継承が出来ていないことも影響しているとか。食物連鎖の頂点にあるクマですが、昔は、子グマがオオカミに襲われることもあったのではないかと思います。そのオオカミも人間による乱獲で今は存在しません。このようなクマの出没や人的被害の増加の原因は、クマの側ではなくすべて私たち人間の側にあるように思います。

神様は「天地創造」によって、天、海、地、そして、そこに様々な生き物を創造し、「産めよ、増えよ、満ちよ」と仰いました。そして最後に、そのように神様がお造りになったもので満ちたものすべてを私たちに委ねられたのです。私たちは、この神様からの委ね、使命を全うできているのでしょうか。

今、この世界では国や地域、人種、宗教等、私たち人間の持つ秤や物差しによる争いや奪い合いが絶えません。この奪い合いは、遠く離れた国や地域にあるものや命に限らず、直ぐ身近にあるものや命にまで及んでいます。そして、場合によっては、自らの家族の命まで奪い合い「愛すべきは自分のみ」になってしまっているのではないのでしょうか。今一度、この世にあるすべてのものは神様によって造られ、神様の「愛」に包まれているものであることを思い起こし、同じ「愛」の中にいるものとして互いに愛し合う中で歩みを取り戻したいものです。

実りの秋、未来を担う子どもたちと共に、神様の大きな愛によって創られ、私たちに託されたすべてのものを管理する「使命」の大きさを今一度噛みしめ、使命を全うするための気づきと働きの歩み続ける輪を広げていきたいと思えます。

11月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	ありがとう	ありがとう
月の願い	*神様からのたくさんの恵みを受けて、「うれしいな」「おいしいね」「ありがとう」と心と体で感じながら過ごしてほしいと思えます。	*神様が与えてくださった自然や様々な恵み、いつも一緒に過ごしている友だちや家族に「ありがとう」の気持ちを感じながら過ごしたいと思えます。
讃美歌	「おほしがひかる」 こどもさんびか77	「あなたの平和の」 聖歌集増補版1